

2020年11月23日

## 令和2年度第2回 海岸工学委員会委員会議事録

開催日時：令和2年11月21日（水）16:10～18:30

開催場所：ZoomによるWeb会議

出席者：後藤委員長，佐々木副委員長，田島幹事長，森，内山，荒木，北野，川崎，桑江，有川（各小委員長），鈴木，遠藤，越村，小竹（各副小委員長），太田，片山，加藤史訓，嶋原，瀬戸口，高川，坪野，原田，渡部，渡辺（各委員兼幹事），浅川，安部，伊藤，入江，岩前，榎田，岡田，小野，柿沼，加藤茂，信岡，日比野，松本，宮武，山中，山本，吉永（各委員），柴山相談役  
議事録：宮武・田島

資料：

- ・ 2020年度第2回海岸工学委員会資料(スライド)
- ・ 研究小委員会報告資料(事前配布)

審議報告事項：

- ・ 前回議事録の確認：WEB公開済の議事録を確認した。

### 1. 海岸工学論文集第67巻発刊準備状況について（森論文編集小委員長，田島幹事長）

#### (1) 最終審査報告

- ・ 登録論文数：306編(過去3年：321, 312, 362編)  
第1段審査通過論文数：265編（企画セッションはなし。不採択41編）  
第2段審査通過論文数：261編（CEJ16編, SCI6編含む。不採択2編，辞退2編）  
第2段審査以降通過論文数：259編  
（通常237編+CEJ投稿16編+SCI6編。不採択1編，辞退1編）  
※オンライン海岸工学講演会での発表希望数：205(190(一般)+10(CEJ投稿)+4(その他SCI-J)+1(通常号))
- ・ 第2段審査以降の辞退論文内訳  
合計3編（第2段審査原稿提出時：2編(データが不足。原稿提出が間に合わない。)）  
第2段審査・再審査時：1編(修正意見に対応できない。)
- ・ 取り下げ手続き  
3編とも著者全員の自筆署名の文章提出を求め，2編は提出済。1編は未提出。

#### (2) J-Stage 作業について

- ・ 組版を廃止し，Author+から最終原稿PDFを組版業者（大應印刷）に提出。
- ・ 組版業者（大應印刷）に論文フォーマットのチェックを依頼  
著者が対応可能な修正が必要な原稿：8編（題目変更、著者順変更、著者名、受付日の誤りなど）
- ・ 論文査読～J-Stage 登載作業までの日程について：新型コロナウイルスの影響もあり，例年に比べて投稿期間を延長。
- ・ J-Stageには例年通り11月初旬に公開。

#### (3) 論文集編集の現状・検討課題

- ・ 最終原稿PDFアップロード Author+ の運用5年目
- ・ 最終PDFの様々なゆらぎ：今年度は多数とのことであったが，今年はほとんど無し。
- ・ 英文論文(全文査読)の募集を継続（第2段審査投稿数14(10)，採択数14(10)）( )は昨年

- CEJ 投稿による発表を許容したため、投稿数の減少が懸念されたが、ほぼ例年どおりで推移.
- ・ 投稿申し込みシステムを英語化
- ・ 企画セッションは今年度無し.
- ・ その他  
 題目・著者変更ルールについての確認・周知：依然として複数の問い合わせあり→Web の FAQ を参照

#### (4) 論文集査読 現状・検討課題

##### 次年度の変更(覚え書)

- ・ 通常号の改訂に合わせて、Corresponding author を追加する.
  - 主査判定のガイドライン及び主査報告の書き方
  - ・ 最終判定の明確化・カテゴリー
    - A)受理：そのまま掲載可. 校正上の修正以外は求めない
    - B)受理：微修正. 校正上のやや大きな修正およびD判定に関わらない程度の修正. 主査が再度チェックする必要あり
    - C)再査読. D判定の可能性のあるものとして判定
    - D)却下
  - ・ 主査判定のガイドライン
    - C判定とする場合
      - ケース 1)：再査読でDの可能性のある判定の場合
        - cec (委員長・副委員長・幹事長・論文編集小委員長) まで主査報告書を添付して連絡.
        - C判定の妥当性の確認と承認
        - 判定理由の文面を丁寧に作成
      - ケース 2)：念の為再査読で確認したい程度の場合
        - 基本的に連絡の必要なし
        - C判定の妥当性の確認と承認
        - 判定理由の文面を丁寧に作成
    - 判定書の書き方
      - 主査報告の「判定理由」で最低限クリアすべき項目・対応を具体的に明記.
      - クリアすべき項目・対応が対応できない場合は、D判定の可能性のあることも最後に明記.
- C/D 判定の主査報告の書き方：次の例のように、何に対応する必要があるのかを対応事項は具体的に記載する.
- 例：判定理由
- 本原稿は、工学的に重要な知見を含んでおり、海岸工学論文集に適した目的・解析が行われていますが、いくつか重要な指摘・修正事項がありますので修正してください。修正原稿にもとづき掲載可・棄却の判定を行います。修正あたり、以下の点に留意して慎重かつ丁寧に修正を行ってください。
- 査読者 A の指摘事項 1),3),5)には必ず対応してください。
  - 査読者 B の指摘事項についてはすべての事項に必ず対応してください。
  - 査読者 C の指摘事項 2), 5)には必ず対応してください。3)は査読者の誤解に基づく指摘ですので無視してください。
  - その他の事項に関しては、著者の判断にお任せします。
- D判定とする場合のガイドライン

## D 判定とする場合

- cec まで主査報告書を添付して連絡。D 判定の妥当性の確認と承認。
- 主査報告の「判定理由」で最低限クリアすべき項目・対応を具体的に明記（できるだけ次に繋がるような文章で）

## 査読者間で判定が一致している場合

- 投稿者が D 判定であることを理解しやすいように、論文のクオリティとして不足している点等について判定理由を明確に書く。
- 全ての査読者の意見の詳細も掲載。原稿作成・投稿時に気をつけてほしい点を明確することが、次回以降の原稿のクオリティ向上につながる。

## 判定が割れている場合

- 判定が B,C,D と分かれるような場合、できるだけひと手間かけてでも C 判定とし、著者に対応の機会を与える。
- 上記の条件で C 判定とする場合、主査は「判定理由」に個々の査読意見をもとに最終的な対応について主査コメントを明記する。

## D 判定とする場合のガイドライン 2

- 研究のオリジナリティ・完成度を重視、判断の難しい論文は、他の査読結果と俯瞰してチェックするため、cec@jsce.or.jp まで報告する。
- オリジナリティ等のグレイゾーンの論文については個別に判断する。
- ・ 土木学会論文集編集調整会議・関連項目
  - 討議集-J-stage 上で有料 1 万 5 千円を活用、討議集として掲載。
  - Errata 全体で年度ごとにまとめて出版可能。リクエストに応じて検討。
- ・ 論文編集小委員長の交代について
  - 森委員長の 6 年間の任期満了に伴い、沿岸域小委員会の川崎委員長が就任。これに伴い、沿岸域小委員長は遠藤副小委員長が就任。
- ・ 著者負担金は 25,000 円(特集号, J-Stage 掲載), CEJ 及び SCI 等は 10,000 円(会場費が不要だったため例年より 1 万円減額)
- ・ 論文集 DVD は 3,000 円
- ・ 収入・支出の概要についても説明があった。

## 2. 海岸工学論文賞および論文奨励賞について（田島幹事長）

- ・ 今年度よりメール審議により講演会の事前に決定することとなった。
- ・ Web でも公開済み。以下報告。
- ・ 海岸工学論文賞は査読の得点に基づき選定した 10 篇の候補論文を 5 人の審査員により審査し、以下の 3 編が受賞することとなった。
- ・ 海岸工学論文奨励賞は査読の得点に基づき選定した 5 編の候補論文を 5 人の審査員により審査し、以下の 3 編の第一著者が受賞することとなった。
- ・ 海岸工学論文賞
  - 題目：光ファイバを用いた地盤高計測および濁度推定手法の白川河口干潟への適用性検討
  - 著者：山野貴司・黒田直人・辻本剛三・外村隆臣・酒井大樹
  - 題目：超音波ドップラー式海象計で観測された方向スペクトルの安定性と信頼性の向上
  - 著者：橋本典明・三井正雄・川口浩二・藤木峻
  - 題目：残留泡沫の組織化と合体、消失過程
  - 著者：渡部靖憲・野中拓実

- ・ 海岸工学論文奨励賞

題目：畳み込みニューラルネットワークによる台風気象場を用いた高潮の時系列予測と長期評価

筆頭著者：荒木裕次（共著者：安田誠宏・Adrean Webb・森信人）

題目：地表面変位観測による地盤内の空洞陥没の予知および吸い出し抑止法の検討

筆頭著者：工代健太（共著者：佐々真志・梁順普・高田康平）

題目：気候変動観測衛星 GCOM-C/SGLI による沿岸域に特化した大気補正手法の考案

筆頭著者：中山大雅（共著者：比嘉紘士・緒方一紀・虎谷充浩）

- ・ 土木学会論文集編集調整会議について（森編集小委員長）
  - 土木学会論文集全体の投稿数が少ない。活性化を図るため、論文集全体構成を変更。
  - これまで各部門で A, B(B1,B2...)などに別れていたものを土木学会論文集に統一。
  - 各部門に対しては Vol. に対応。どこに出しても土木学会論文集となる。
  - 名称は和文 Japanese Journal of JSCE, 英文 Journal of JSCE に決定。
  - 新しい体制は 2022 年 4 月投稿スタート。2 年後に新体制に入れ替わる。
  - 特集号の英文は全体の Journal of JSCE に収録したいとの議論があったが、特集号にメリットがないため、再検討をお願いした。B 部門の全体での要望として、特集号は今までとおりとし、Journal of JSCE は web 上でリンクをつけることで対応できないかリクエストしている状況。
  - 査読システムも統合もしくは入れ替えの予定。特集号から編集小委員長が会議に出席。
  - 参考文献の書き方が変わる方針。
- 3. 第 67 回海岸工学講演会（Zoom 開催）について（田島幹事長）
  - ・ 実行メンバー  
広報出版小委員会，幹事長
  - ・ 日程  
11 月 10 日(火)～13 日(金) Zoom 3 会場×4 日間：各セッション発表 4 編  
セッション間の休み時間は 20 分。1 編 20 分(発表 12 分質疑 8 分)
  - ・ その他
    - 講演会参加は事前申込制とする。申込登録者のみに zoom の url を知らせる。
    - 司会，発表者，聴講者全員が zoom に接続(300 名まで)。聴講者はビデオ・音声をオフに。
    - 司会，発表者のみ zoom 上での画面共有権を付与。発表者はその場で画面共有して発表。
    - 録画による発表(動画ファイルを事前提出)を可とする。
    - youtube によるライブ配信(ややタイムラグあり)を行う(予定)。
    - 質疑応答は音声+zoom のチャット機能を活用。
    - 開会式・閉会式・表彰式は行わず，pdf にてプログラムとともに委員長挨拶および CEJ 各賞の受賞者を掲載して参加登録者に電子配布。
    - 論文賞および奨励賞の受賞者は委員会にて承認後に各セッションで司会から紹介してもらう。
    - 11 月 9 日(月)に発表確認の場を設けた
  - 質疑応答でチャット機能，挙手の方法，マイク機能の周知，時間管理等の課題が挙げられた。

#### 4. 第 68 回海岸工学講演会について（北野実行委員）

- APAC が 2 年シフトしたため、開催を順次シフトすることになった。
- シフト後、2021 年は岐阜で開催、2022 年は関東で開催、2023 年は京都で APAC と同時開催。
- 第 68 回海岸工学講演会  
実行委員：水谷(名大)、東海地域の教員  
日 程：2021 年 11 月 10 日（水）～11 月 12 日（金）  
会 場：じゅうろくプラザ、岐阜大学サテライトキャンパス  
前日シンポジウム：2021 年 11 月 9 日（月）じゅうろくプラザ 開催予定  
見学会：2021 年 11 月 9 日（月）今後要検討  
名古屋港コース：名古屋港見学（乗船）  
長良川河口堰コース：長良川河口堰、輪中、排水機場（犀川）  
懇親会：2019 年 11 月 12 日（木）18:30～20:30 今後要検討  
岐阜ワシントンホテルプラザスカイルーム
- 昼食を伴う委員会：岐阜大学サテライトキャンパスで実施予定
- 2022 年は、2021 年の岐阜での開催の有無によらず関東で開催。開催地点などは検討中。

#### 5. 第 56 回水工学に関する夏季研修会（山中委員）

主 催：公益社団法人 土木学会（担当：水工学委員会、海岸工学委員会）

後 援：土木学会四国支部

日 程：2021 年 8 月下旬もしくは 9 月上旬（1 年延期となった）

場 所：高知大学朝倉キャンパス（仮）

共通テーマ：今後要確認（講師の変更は行わない予定）

プログラム：今後要確認

実施方法：主担当は水工学委員会。基本的に「対面方式のみ」を想定。状況に応じオンラインも検討。

今後のスケジュール：日程調整等は来年 2 月頃行う予定。

次回の担当：主担当は海岸工学委員会関東開催。

#### 6. Coastal engineering Journal について（内山 CEJ 小委員長）

- 小委員長：内山、副小委員長：有働  
委員：下園, Suppasri, Khayer, 田島, 高木, 田村; 原田, 日比野, 今井, 加藤, 木原, 三井, 陸田, 織田, 鈴木, 高川, 三戸部
- Impact Factor は 2018 年：2.016 →2019 年：2.032
- カテゴリーパーセンタイル 75%超の Q1Journal までもう一步。
- 引用先は CEJ が多いが(14%), Publisher によればまだまだ。投稿の際は CEJ の引用を推進。
- 査読プロセスの高速化, 投稿から最終判定までの平均所要日数が 25%程度減少。  
2019 年 Accept 36, Reject 23                      2020 年 Accept 36, Reject 25 (11/5 現在)  
Accept 論文：282.4 日                              Accept 論文：214.3 日  
Reject 論文：92.4 日                                Reject 論文：68.4 日  
全平均：208.3 日                                    全平均：154.5 日
- 出版状況
  - 2020 年 Vol. 62, No. 1 (March)：7 編出版
  - 2020 年 Vol. 61, No. 2(June)：14 編出版 (そのうち 2 編は Survey Reports)
  - 2020 年 Vol. 61, No. 3(September)：8 編出版 (そのうち 1 編は Technical Note)  
SI: Latin American Tsunamis (Eds: Erick Mas & Shunichi Koshimura)

- 2020年 Vol. 62, No. 4(December) (予定) : 13編出版 (そのうち1編は Technical Note)  
採択後の組版段階で Publisher 側の落ち度により校正に時間を要した論文があったことが報告され, そのような不都合があった場合は, 内山 CEJ 小委員長に連絡する.
- 2020年度の投稿数: 41編(そのうち2編は Survey Reports)で例年と比べると多い.
  - 欧米から少なく, 欧州から増加傾向. 日本から減少傾向にあり, 投稿数の増加を目指す.
- 2021: Special Issue on Coastal Blue Carbon and Green Infrastructure (2021年発行予定)
- 2022: CEJ Special Issue on Coastal Hazards and Risks due to Tropical Cyclones (2022年発行予定)
- Coastal Engineering Journal Award 2019  
Nguyen Xuan Tinh & Hitoshi Tanaka (2019): Study on boundary layer development and bottom shear stress beneath a tsunami, Coastal Engineering Journal, 61:4, 574-589
- CEJ Citation Award 2019  
Hitoshi Gotoh & Abbas Khayyer (2018): On the state-of-the-art of particle methods for coastal and ocean engineering, Coastal Engineering Journal, 60:1, 79-103
- 海岸工学講演会関係
  - 第2段査読時に CEJ 投稿予定とした論文: 16編
  - 2020年8月20日までに投稿済み: 8編  
(約1週間で IA, 査読中 6, Accept 1, Decline 1)
  - 著者による自発的 withdraw: 8編
- 契約の一部更新 (交渉中)
  - T&F が収集した CEJ 購読者 (JSCE 会員含む) の個人情報の取り扱いを EU 法に適合させるための Minor Change を行っている.
- 印税について
  - 2020年度も前年度と同程度の入金があった. 今後も同程度の額の収入が期待される. 受賞盾などに有効活用.
- 年間に査読した本数 3編程度, 平均査読遅延日数 0日を目安とした Reviewer award(Editor, Additional Editor も含め)を出したい提案が, 内山 CEJ 小委員長よりなされ, 承認された.

## 7. 常設委員会の報告 (広報・出版, 沿岸域連携)

- 広報・出版 (荒木小委員長)
  - メンバー (2020年度体制)  
川崎(顧問), 荒木(小委員長), 安田(副小委員長), 北野, 田島, 山城, Bricker, 中村, 渡邊
  - WEB情報の充実
    - 海岸工学関連の本の紹介(1~2か月おきにアップデート)
    - 海岸工学講演会関連の情報, 海岸工学論文集データベース, 若手の会, 見学会の充実化.
    - 災害DBの順次補充: 2018年高潮災害掲載済, 2019年台風15号19号関連は随時追加.
    - 海岸工学委員会の新HPについて: 2019年の12月に更新
    - 海岸工学の魅力, 波浪や津波等の一般向け: 検討中
  - プログラム・DVDの状況
    - 業界案内: 2020年は開催形態が異なった影響で減少傾向.
    - 冊子広告枠: 2020年は5件.
    - 企業展示: 2020年はなし.
    - 講演会の案内: 2020年はなし.
    - プログラムの広告枠: 昨年度の4件から5件に変更.

- 今回の講演会は Zoom の会場を youtube で同時配信されており、アーカイブされた講演会を講演会終了後、HP で配信してはどうかという提案が荒木小委員長によりなされ、できるだけ速やかに削除することを前提で、登録者のみ公開期間を数日程度に限定して配信することで承認された。このことに関連して web 上のプログラムを紙版のプログラムと共通化とすることも併せて承認された。
- 海岸工学委員会の HP 上で、支援いただいている企業の広告を掲載することができないかという提案が荒木小委員長によりなされ、執行部により検討を継続することとなった。
- ・ 沿岸域連携（川崎小委員長）
  - 川崎小委員長が論文編集小委員長に就任するに伴い、遠藤副小委員長が小委員長に就任。
  - 川崎小委員長は顧問に。副小委員長は新小委員長と執行部との協議で決定。
  - 活動報告
    - コロナ禍の影響もあり、現在十分な活動ができていない。
  - 今後の予定
    - 本小委員会の今後の進め方について検討する予定。
- ・ 研究小委員会の活動について（津波、減災アセスメント、地盤材料、気候変動）
 主な活動：
  - 津波委員会：津波解析ハッカソンの実施。
  - 地盤材料小委員会：2020 年度の出版に向けて土木学会と協議中。

## 8. その他（後方・出版、沿岸域連携）

- ・ 令和 2 年度の委員会予算について（田島幹事長）
  - 収入(調査研究費+研究調査拡充支援金+CEJ 印税) および執行状況について説明があった。
  - コロナ感染症の影響により活動が制限されていることを鑑み、今年度に限り上記拡充支援金を次年度に繰り越せることとなったため、繰り越しを申請した。
  - 今年度の予算の用途の一つとして、森論文小委員長からのご提案で学会アプリ Confit の導入が提起され、今後執行部で検討する方針が示され了承された。
- ・ 海岸工学講演会・特集号の今後に関する戦略 WG について（佐々木主査、原田幹事）
 原田幹事より、投稿数の推移、検討・議論された事項の履歴、英文ジャーナル(CEJ,他 SCI), 質の維持・適正規模についてこれまでを振り返りながら、今後の戦略を検討し、2021 年度の方針が以下のように提示され、2021 年度の講演会から実施することが承認された。
  - 要旨査読で採択された時点で講演会での発表を確定する。
  - これまでと同様に要旨査読が採択されたら、本論文を投稿できるが、ここで、本論文を投稿しなくてもよいオプションを新たに設ける(本論文を投稿しなくても講演会では発表する)。
  - これにより、CEJ やその他のジャーナルに投稿予定、投稿中、採択済みの研究などを講演会で発表できることになる。
  - ただしこの案では CEJ 投稿のインセンティブがなくなるため、CEJ 投稿を促すしくみを別途検討する。
 さらに以下のことが議論され、具体案の検討を継続する。
  - CEJ 投稿等の場合には出版、採択済みの発表者はプログラムで明示する。(招待講演として位置づけることで CEJ 投稿のインセンティブを付与。)
  - 投稿料と締め切りについて
  - 査読受付システムの変更(本原稿投稿をする/しないのオプションを入れるなど)
  - 本論文を投稿しない場合の、 extended abstract(DVD に収録)のフォーマットと提出方法。
 最後に、他学会(地震学会、日本水環境学会)の取り組み調査について以下の報告があった。

- 論文と発表は別扱いにしている.
- 参加者確保のために以下の様な取り組みをしている.
  - ・受賞者の講演セッションの設定 [地震] (パラレルセッションはなしで一つ会場に集まる)
  - ・数年・複数論文に対する表彰 [地震]
  - ・ポスター, セミナー [水環境] (発表する機会が多い)
  - ・多種の表彰 [水環境]

これを受け, 今後の課題として, 以下のような項目が提示された.

- 発表形態の拡充  
ポスター賞などのインテンシブも併せ, ポスターを加えるかどうか?  
会場設備, スケジュール等, 技術的な検討, ポスター発表の需要調査など検討が必要.
- セッションの拡充や新たな試み.  
企画セッション, 受賞者講演, 招待講演, イベント.  
CEJ Award, CEJ Citation Award 受賞者の公演.  
ハイブリッド講演会も視野.

→アンケートやヒヤリングを通じて, 今後も検討を続ける予定.